

## 増える公立中高一貫校と「適性検査」の増加、新たな教育に注目を！

今春 2019 年には首都圏の公立中高一貫校では初めての「IB（国際バカロレア）スクール」となる、さいたま市立大宮国際中等教育学校が開校し、1,000 名以上の志願者に。首都圏ではすでに 25 校となった公立中高一貫校の全国的な増加と、教育の進化の動きを紹介します。



### 都立の併設型中高一貫校が高校募集を停止

東京都立の併設型中高一貫校 5 校が、2021 年～2022 年にかけて高校募集を停止し、中学募集数を増やすことを今年 2 月に公表しています。富士高校・附属中学校と武蔵高校・附属中学校は 2021 年、両国高校・附属中学校と大泉高校・附属中学校は 2022 年、白鷗高校・附属中学校はどちらかの年度から、高校募集を停止予定です。改編計画には、「高校段階での生徒募集を停止するとともに、中学校段階からの高いニーズを踏まえ、中学校段階での生徒募集の規模を拡大」と明記されていることから、同じ年度に「中学募集定員を拡大」する予定と解釈できます。つまり、いまの小学校 5 年生が中学受験（受検）に挑む 2021 年からは、都立中高一貫校の受け入れ枠がその分だけ拡大することになり、受検生の数も一段と増えることが予想されます。

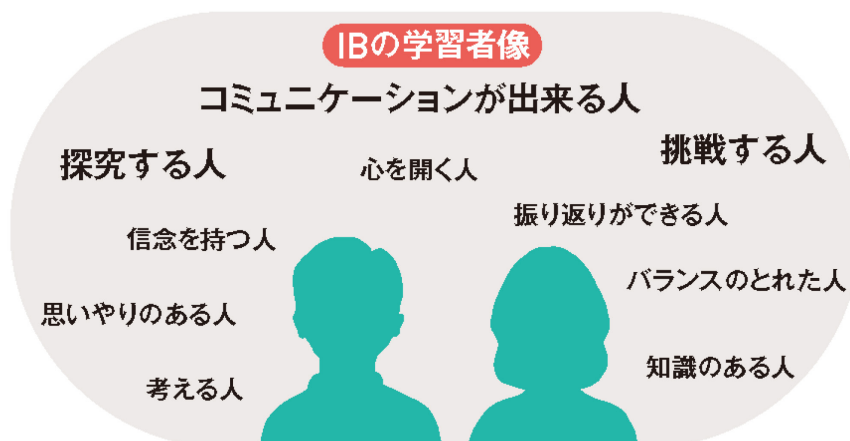


### 茨城県立のトップ高校が次々と中学募集を開始して中高一貫校に！

茨城県では、2020 年から 2022 年にかけての 3 年間で、県立高校 10 校が中学募集を開始し県立中高一貫校となることが 2 月に公表されています。新たな併設型の中高一貫校として、来春 2020 年には太田一、鉾田一、鹿島、竜ヶ崎一、下館一の 5 校（いずれも中学各 1 学級）、2021 年には水戸一、土浦一の 2 校（ともに中学各 2 学級）、2022 年には下妻一、水海道一の 2 校（ともに中学各 1 学級）を開校し、勝田は中等教育学校（3 学級）に改編し、2021 年の開校を予定しています。いずれも茨城県内の各エリアで高い入試レベルの高校で、なかでも水戸一、土浦一などは県立の最難関進学校であるだけに、県内の小学生と保護者からは大いに注目され、新たな「中学受検ブーム」が起こっています。

## 埼玉・大阪・広島では今春、公立中高一貫校の「IB スクール」が誕生

埼玉・大阪・広島では今春 2019 年 4 月に、「IB（国際バカロレア）プログラム」での教育を行う予定の公立中高一貫校が開校しました。埼玉県さいたま市立大宮国際中等教育学校、大阪市立水都国際中学校・高等学校、広島県立叡智学園中学校・高等学校の 3 校です。全国的には、すでに 2015 年に北海道札幌市に、札幌市立札幌開成中等教育学校が開校し、高い人気を集めています。さいたま市立大宮国際中等教育学校には、開校初年度から 1,000 名を超える志願者が集まりました。同校は、適性検査のなかで英語の出題も課したことで「公立学校における英語入試」導入の先駆けとなり、その点も注目されています。大阪市と YMCA の協力による公設民営の中高一貫校として開校した大阪市立水都国際、全寮制の中高一貫校として開校した広島県立叡智学園中学校・高等学校ともに、開校初年度から非常に高い競争率になっています。国が導入を推進している「IB（国際バカロレア）プログラム」導入校が、公立中高一貫校のなかにも誕生してきたことが注目されています。



## 国立大学附属中学校にも「適性検査（非教科型入試）」導入の動き

このような各地での公立中高一貫校の増加にともない、中学入学者選抜における「適性検査」実施校と、その受検をめざす小学生が年々増えていくことは確実です。公立中高一貫校だけではなく、国立大学附属中学校でも、首都圏では東京大学教育学部附属中学校や東京学芸大学附属国際中学校が、すでに入試の形態を、従来の 4 科目入試から「適性検査」へと変更しています。2021 年からは、お茶の水女子大学附属中学校も、入試を「適性検査」へと変更します。つまり、国の教育研究・実習機関でもある国立大学附属中学校でも、「教科型入試」から「適性検査」に象徴される「非教科型入試」の導入によって、今後の大学入試改革で求められるような力を問う、新たな入試のあり方を模索していることになります。首都圏の私立中学校の過半数にあたる 147 校が、すでに「適性検査型入試」を導入していることにも、同様の意味があると考えておくべきでしょう。